

# 乳がん 高度検診・治療センター NEW-す NO.13

2014.12

## 人工乳房保険適応から1年 乳房再建でイキイキとした人生を



この「乳がん高度検診・治療センターNEW-す」第1号(2013年12月)は人工乳房の紹介号としました。それからちょうど1年経過しますので、今回再び人工乳房(プレスト・インプラント)あるいは広く乳房再建の話題を取り上げます。

乳がんの手術により失ってしまった乳房をもとの形に近い状態に復元させるのが乳房再建であり、人工乳房を使用する方法と自家組織(自分の身体の一部)を用いる方法とがあり、どちらがより適しているかは患者さんの体型などの諸条件によっても異なり、それぞれにメリットとデメリットがあります(表)。再建時期は乳がん手術と同時に行うこと(一次再建)も、手術後間をあけて行うこと(二次再建)も可能です。再建方法、再建時期など乳腺外科担当医や形成外科医とよく相談なさって選択してください。

人工乳房が保険適用となったのが2013年7月ですが、当院は人工乳房の実施施設としての認定をいち早く受けて、積極的に行ってきました。当初認可されていたラウンド型のみならず、今年1月からはしずく型の人工乳房も保険適用となり対象が広がりました。

当センターでのここ1年間(2013年12月～2014年11月)の実績を見ても乳房再建手術は20例で、うち14例が人工乳房でなされています。このうち手術と同時に行った一次再建は13例(うち人工乳房7例)です。今後とも一次再建の率は向上してゆくものと予想されます。乳房再建は当センターとしても最力を注いでいる分野のひとつであり、泉州地域でも屈指の施設と自負しています。

乳がんの手術は、乳房の大部分を残す乳房温存療法が理想的ですが、何らかの理由で乳房切除が必要な患者さんも、それぞれの価値観に応じて乳房再建の道が残されていることを知っていただき、その後の人生を前向きな気持ちで過ごしていただければと願っています。

	人工乳房による乳房再建	自家組織による乳房再建
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 正常な部位を傷つけることなく再建が可能</li> <li>● 手術時間・入院期間が短い</li> <li>● 後から抜き取りや入れ替えが可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 温かく柔らかく自然な仕上がり</li> <li>● 年齢と共に自然に下垂</li> <li>● メンテナンス不要</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 硬めで、寝てもインプラントの形を維持する</li> <li>● エキスパンダー使用時に痛みを伴う</li> <li>● アレルギー反応や感染症などの合併症の発生も</li> <li>● 定期的な通院などのメンテナンスが必要</li> <li>● 将来的に入れ替える必要がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 手術時間が長い</li> <li>● 入院期間が長い</li> <li>● 乳房再建に使用するため、正常な部分にもメスを要しなければならない</li> <li>● 自家組織採取に伴う、合併症の発生も</li> </ul>



詳細は乳がん高度検診・治療センター又は形成外科にお問い合わせください。

市立貝塚病院

TEL : 072-422-5865

